

目 次

活躍する観一 同窓会松山支部	薦田 高士	34
観音寺支部報告	高橋 幸男	36
大野原支部報告	高橋 正澄	39
特集座談会・三豊の古代史・小山修二氏を囲んで	41	
同窓会京阪神支部総会風景	1	
同窓会本部総会風景	19	
香川県立三豊中学校校歌	21	
香川県立三豊商業女学校校歌	21	
香川県立観音寺第一高等学校校歌	21	
ご挨拶	22	
ご挨拶	22	
大山 眩	24	
時の人・白井 美則氏	26	
時の人・門脇 昕氏	28	
同窓会・学年会・支部会だより	32	
三女明濱会役員会	33	
明濱会京阪神支部総会	鈴木 恵美子	
中国における北と南	佐伯 富	
	72	
白井学長就任に誇り	横山 潔	48
宮島見学と江田島へ	坂本 覚一	49
男女合同で二回目	安藤 怜	54
同窓会に想いを寄せ	大河内フジミ	55
笑顔とおしゃべりと	藤村ミヤ子	57
広島へ招いて同窓会	伊藤 敏子	58
久し振り不動の滝へ	別役美代子	60
会の名前は「秋桜会」	多田 峰子	62
日本海でカニづくし	菅 政雄	63
名付けて「花の二八会」	滝井 厚子	66
血が通い合う春の宴	佐野 仁	67
論文・エッセイ		

高橋和己の大野原時代	門脇 照男	75	「奥の細道」との出会い	中尾 隆夫	129
四国八十八ヶ所巡拝の旅（その二）	横山 潔	86	特集・OB会ニュース		
関西財界訪中代表団に参加して	三野 重和	96	科学部・現在の会員は百六人	永田 浩一	131
トマト「桃太郎」の誕生	高橋 治	97	社会に出て役立った	菅 政照	133
同級生・高橋和己	高井 弘一	100	行動を共にした仲間	永田 浩一	139
信仰に生きる今の私	小野 トミ	104	天文班での想い出	長船 洋子	147
「さんじらこ」を読む	片山 末子	107	安藤先生との出会い	北迫 道子	149
同窓会で思ったこと	松尾志津香	107	科学部に入部の動機	穴吹 眇宜	150
ボランティア活動日米の違い	原田恵美子	110	理科教師38年の起点	奥平 一子	151
この頃になって思う事	中村千寿子	113	三泊四日の登山旅行	中西 進	153
出会いと歌碑の建立	山田 真妙	115	『砂のおむすび』どうぞ	佐川 釜子	156
二つの故郷に思う	大岡 富子	117	充実の人生をめざして	安藤 俊一	157
時の人・二人のドクター	真鍋和歌子	118	恩師からのメッセージ		
夏の夜、一刻を楽しむ	佐川 釜子	120	“花の三女”あれこれ	請川 昇	159
わが「八神社」のこと	三宅 昭一	121	大きな地震に備える	岡田 恒男	
東京の同窓会に越境	三宅 正幸	123	観一同窓会高瀬支部総会		
炎と燃えた円の輪					
荻田奈津美		127			
文芸コーナー（短歌、俳句）		177			
		178			

古稀	横山 恒雄	181	寺田 美代子	185
レタス作りの折々に	浅野 幸	181	織田 美保子	185
忘るるならじ	岡本 典子	181	前川 梨恵子	185
夕立の去りて	香川 益子	181	弓削香代子	186
熟れ麦の頃	安藤 順子	182	筒井 和代	186
こんぴら歌舞伎	安藤ふみ子	182	奥下 厚子	186
「雨の一夜庵」	伊丹ますみ	182	薦田 高士	186
空	西山 道子	182	横田 千代	187
ふる里想いて	川上 豊子	183	俳句・無題	187
南風吹く頃	篠原 久子	183	安藤 茂子	187
雪踏む音	高井 和子	183	出雲路	
芽吹きゆく	三谷 澤子	183	藤田八重子	187
夕つ日	石田 君江	184	春立や・亡き友へ	
春	大西 秀子	184	長野 美枝	
五月の頃	小野 敏子	184	花芒	
鎮魂	龜山恵美子	184	藤戸 侑子	
師の歌碑に	多田 峰子	185	ふるさと	
		185	田中千鶴子	
		186	桐の花	
		187	三好 昭美	
		188	俳句・無題	
		188	東 美千子	
		189	旅日記・35年ぶりの帰国	
		190	多田 直廣	
方今				
春・夏・秋				
生きゆく				
異国にて				
夢				
一日だけの休日				
俳句・無題				
奥下 厚子				
薦田 高士				
横田 千代				
安藤 茂子				
藤田八重子				
長野 美枝				
花芒				
藤戸 侑子				
田中千鶴子				
三好 昭美				
東 美千子				

「巨龍」第二号への投稿お願い